

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 5 年 1 0 月調査結果 - -

(平成 1 5 年 1 0 月 3 1 日)

調査期間：平成 1 5 年 1 0 月 2 0 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 1 業種組合等にヒアリング  
(内訳) 建設業 3 8 2 製造業 6 3 0 卸売業 2 3 0  
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

### D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3

E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成15年10月調査結果のポイント】

### 業況DIは7.6ポイント改善するも、先行きは依然、不透明感が続く

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（43.4）よりマイナス幅が7.6ポイント縮小して35.8となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小し、平成12年11月以来、2年11カ月ぶりにマイナス30台となった。

業種別の業況DIについても、全業種でマイナス幅が縮小した。しかし、景況感に回復の兆しとの声があるものの、依然DI値は低水準で、中小企業の足元では、業況の停滞感が根強い。景気の先行きについても、期待するとの声の一方、公共事業の縮小や、依然として消費の低迷、競争激化などを訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「見積りが多い割に受注は今ひとつだが、業況は好転している」（建築工事）との声はあるものの、「売上は例年並で推移しているが、採算が合わず徐々に厳しさが増している」（一般工事）、「公共事業の抑制により競争が激化し、先行きの見えない厳しい状況」（一般工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「各工場とも操業が好転している」（製材木製品）、「全般的に生産量、売上とも増加傾向にあり、中国向け輸出も回復してきている」（有機化学製品）といった声の一方、「納期の短期化等、受注条件が厳しくなった」（一般産業用機械）との声が寄せられている。また、「鋼材の値段が、再びあがりかけている」（建設建築用金属）と仕入コストの上昇や、「円高は造船業界に多大な影響を及ぼすため、今後の受注の落ち込みを懸念している」（船舶製造・修理）と円高の進行を懸念する声が寄せられている。

【卸売業】では、「需要は一定水準で推移しており、年内は好調が続くとの見方が多い」（建築材料）との声や、「気温が低下し、好天にも恵まれ冬物の出荷が順調」（衣服、日用品）と天候の影響を指摘する声の一方、「量販店の安売り競争が激しく、特売協力の名目でかなり安値での販売を強いられるケースが増えている」（食料、飲料）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「売上は若干ではあるが増加傾向」（百貨店）との声や、「気温の低下でアウター衣料、肌着、靴下等が伸び、秋物処分セールも集客を高めた」（百貨店）と天候の影響を指摘する声の一方、「年末年始に向け、期待はあるが消費低迷のトレンドを覆せるか疑問」（商店街）といった声が寄せられている。また、「米の不作のため、関連材料も含め、価格があがる見通し」（商店街）とのコメントも寄せられている。

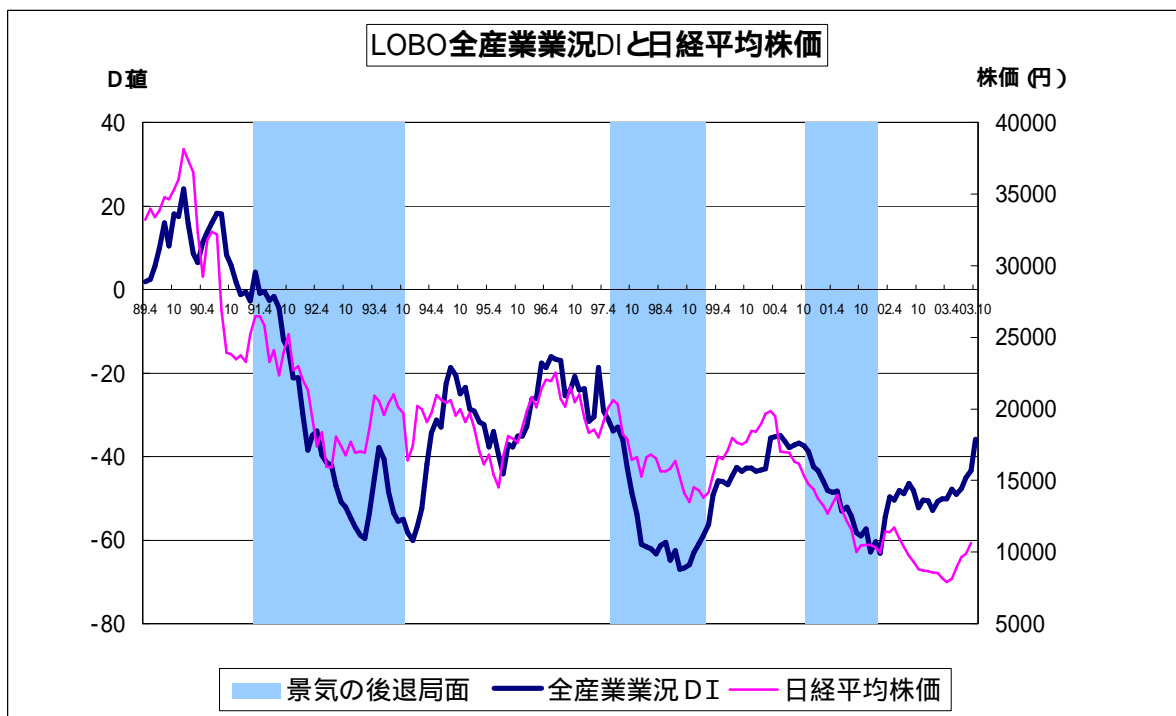
【サービス業】では、「依然、厳しい状況だが、回復基調になっている」（食堂、レストラン）、「組合内ではばらつきはあるが、業況は徐々に好転」（旅館）、「外国人客が戻りつつある」（旅館）といった声の一方、「ビジネスホテルの増加が著しい」（旅館）、「脱サラによる飲食店の開業が増えている」と競争激化を訴える声や、「企業関係の利用者減少が著しく、年末の宴会客もあまり期待できない」（一般飲食店）と依然厳しい状況を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は全業種で前月水準より縮小し、全産業合計の売上 D I は 11.4 ポイント縮小して 28.5 となり、4 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は全業種で前月水準より縮小し、全産業合計の採算 D I は 5.4 ポイント縮小して 34.2 となり、4 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3 カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月ベース) が 29.0 と、昨年同時期の先行き見通し(43.1)と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、景況感に回復の兆しとの声の一方、公共事業の縮小や、消費の低迷、競争激化などを訴えるコメントが依然として目立っている。



【業況についての判断】

10月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 43.4 ）よりマイナス幅が7.6ポイント縮小して 35.8 となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。

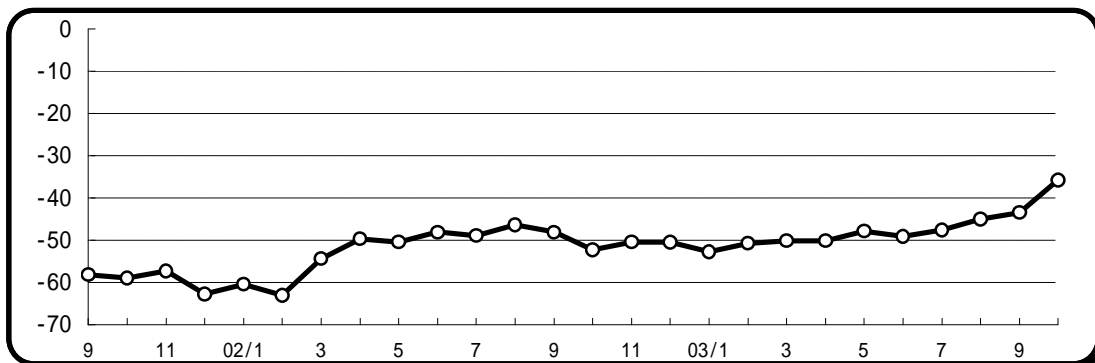
向こう3カ月（11月～1月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 29.0 と、昨年同時期の先行き見通し（ 43.1 ）と比べて改善している。

業況D I（前年同月比）の推移

	15年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	47.8	49.1	47.6	45.0	43.4	35.8	29.0 ( 43.1)
建設	63.0	61.7	59.0	57.2	54.6	53.6	47.4 ( 60.2)
製造	40.7	44.3	37.3	31.8	31.7	24.6	20.8 ( 40.0)
卸売	46.8	44.6	47.0	52.1	41.1	36.5	22.2 ( 44.2)
小売	46.4	46.4	50.0	48.2	48.3	34.1	27.1 ( 38.5)
サービス	47.4	51.4	48.9	44.4	43.6	38.0	30.9 ( 40.6)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年10月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

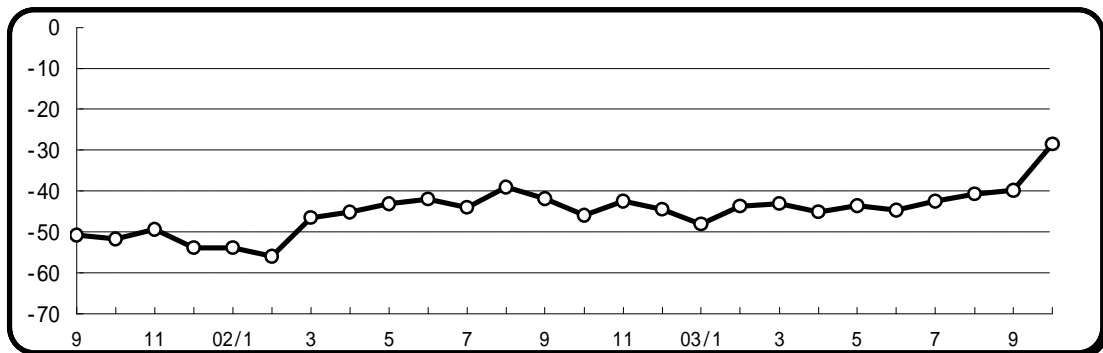
売上面では、D I 値のマイナス幅は、全業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の採算D I は 11.4 ポイント縮小して 28.5 となり、4 カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3 カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 22.6 と、昨年同時期の先行き見通し( 33.1 )に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	43.6	44.7	42.5	40.7	39.9	28.5	22.6 ( 33.1 )
建設	58.4	59.2	52.0	50.9	50.9	41.6	40.9 ( 51.7 )
製造	33.3	36.8	31.0	24.3	24.4	14.2	14.2 ( 33.4 )
卸売	47.7	39.2	45.2	46.7	36.8	30.5	20.4 ( 31.3 )
小売	43.3	46.9	46.7	48.5	47.2	30.2	20.9 ( 25.4 )
サービス	43.5	43.5	42.8	39.6	41.8	33.0	22.8 ( 30.9 )

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

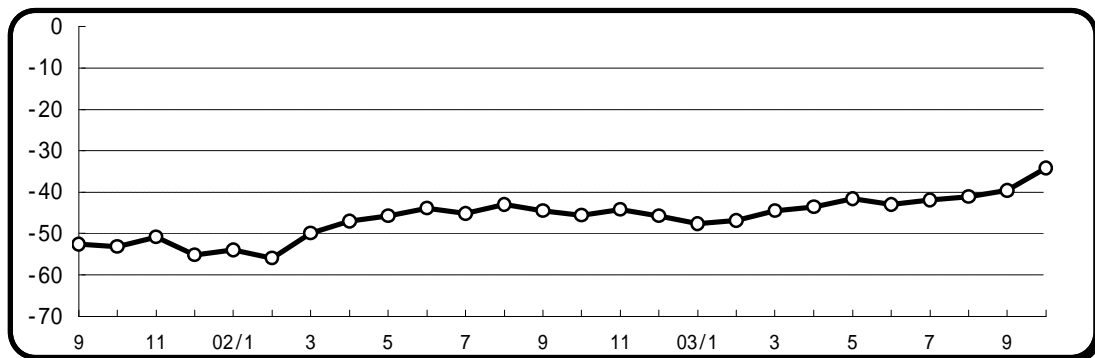
採算面では、D I 値のマイナス幅は、全業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の採算D I は5.4ポイント縮小して34.2となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が26.1で、昨年同時期の先行き見通し(34.5)と比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	41.6	43.0	41.9	41.1	39.6	34.2	26.1 (34.5)
建設	60.1	62.2	60.1	56.2	56.4	54.4	47.6 (55.4)
製造	37.0	38.6	36.9	31.1	33.3	28.5	22.8 (36.4)
卸売	40.7	39.8	42.8	40.1	36.2	30.5	24.0 (30.1)
小売	36.2	36.6	34.8	40.3	37.5	27.7	17.2 (23.7)
サービス	41.3	44.4	43.8	43.2	38.6	36.5	27.6 (33.9)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	32.9	32.9	31.5	30.8	29.0	28.3	23.4 ( 31.8)
建設	46.8	48.9	46.6	44.0	44.3	44.6	38.1 ( 47.6)
製造	33.8	33.7	27.6	26.9	24.0	24.3	21.4 ( 33.5)
卸売	28.9	25.7	28.9	32.1	26.4	21.3	18.2 ( 27.9)
小売	26.2	26.2	26.5	27.8	26.8	26.1	19.3 ( 25.5)
サービス	30.8	30.4	31.3	27.9	27.2	26.5	23.0 ( 28.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造を除く3業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも4カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	4.3	3.6	3.2	4.4	4.7	5.4	7.1 ( 3.4)
建設	2.5	0.4	1.8	2.8	0.4	1.5	7.7 (1.9)
製造	17.7	15.4	14.7	13.3	10.3	14.1	12.3 ( 12.3)
卸売	5.8	0.0	1.2	3.6	0.6	0.6	4.8 (3.7)
小売	6.5	4.0	2.0	0.8	2.9	0.4	1.2 (0.2)
サービス	3.2	3.6	1.8	6.4	5.3	7.8	9.1 ( 4.6)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売で上昇超感が弱まり、卸売で横ばいだったが、他の3業種で強まったため、全産業合計でも3カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】製造は横ばいだが、他の4業種で昨年同時期に比べ上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	15年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	14.4	14.1	14.6	11.3	10.9	9.3	11.2 ( 14.9)
建設	34.3	34.3	33.5	28.3	27.3	22.7	23.7 ( 31.6)
製造	19.6	17.1	18.6	13.2	14.1	10.9	13.2 ( 19.1)
卸売	13.5	14.5	15.1	10.2	9.8	9.6	11.5 ( 12.1)
小売	3.6	5.2	6.1	5.5	3.1	4.6	6.5 ( 8.0)
サービス	8.9	8.2	7.7	4.8	5.8	3.8	5.8 ( 8.4)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】小売を除く4業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも3カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。



## 【平成15年10月の景気キーワード】

### 回復への期待感

各業種から、景気回復への期待感を感じさせる声が寄せられている。建設、製造からは、「採算は悪化したままだが、新規受注高は増加している」(福島・建築工事)、「業界全体に元気が出てきた」(横須賀・土木工事)、「IT関係絶好調により受注も増加し、先行きにも自信を持ってきている」(北上・電気機器製造)、「国内、海外市場とも活発で、来年度の新入社員も増えている」(松任・通信機械器具)、「自動車部品メーカーの業況は堅調で、受注見込みも改善を予想する事業所が増えている」(刈谷・金属加工機械)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからは、「売上は若干上昇気味」(能代・各種商品卸売)、「売上は先月、先々月と比べ減少幅が小さくなってきており、衣料品は徐々に前年実績を上回りそう」(蒲郡・その他小売)、「入店客数が増加している」(川崎・百貨店)、「一般事務の派遣が徐々に回復しつつあり、特に営業職で需要増の兆しがある」(京都・人材派遣)、「大型旅館・ホテルだけでなく中型旅館・ホテルも満員の日が多く、平日も客足が増え、徐々に景気が良くなってきていると感じる」(会津若松・旅館)といった声が寄せられている。

### 先行き不透明感

一方で、先行き不透明感を訴える声も多く寄せられている。「景気回復の兆しはあるものの、地域にはまだまだ明るい材料も見通しも今のところない」(美濃加茂・一般工事)、「仕事量は増えているが、年末までと思われ、冬季は不安」(小千谷・一般工事)、「大手企業は業況が上向きと感じているようだが、末端の中小企業にはまだ感じられず、動きも消極的になってしまう」(伊那・電子部品製造)と景気回復の動きは実感できないとの声や、「業況は低調で大きな変化なし」(御坊・農畜産水産物卸)、「消費はなかなか回復の兆しがなく、苦戦している」(熊本・商店街)、「美容との競合や、顧客の来店周期の長期化で売上は減少傾向」(下関・理容)といった引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。また、円高の進行に関して、「輸出の好調によって景況は好転していると思われるが、円高の影響が見通しを困難にしている」(下館・金物類製造)、「輸入材料が主なので、円高の好悪の影響について注目している」(酒田・製材木製品製造)といったコメントが寄せられている。

### 企業間格差

景況回復への期待感の一方、企業間格差の拡大を訴える声が寄せられており、「受注のある会社とない会社でばらつきがある」(人吉・一般工事)、「企業間格差により小規模企業は依然厳しい」(帯広・家具製造)、「ごく一部に前年度比で売上30%増の店もある」(伊万里・食堂、レストラン)、「全体の基調には変化がないものの、個別企業では、業種、受注先の動向により好不調が見られる」(福井・金属加工機械製造)、「高額品のみ、もしくは低価格品のみを扱う店は人気があるが、その他の店は低調」(桐生・その他小売)といったコメントが寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
15年	8月	不況の常態化	冷夏	先行き期待感
	9月	不況の常態化	先行き期待感	
	10月	回復への期待感	先行き不透明感	企業間格差

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは7カ月連続、売上、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「見積りが多い割に受注は今ひとつだが、業況は好転している」(建築工事)「公共工事は好転しているが、民間工事は相変わらず単価も安いままなので、仕事量は増えてもトータルでは不変」(管工事)との声がある一方、「売上は例年並で推移しているが、採算が合わず徐々に厳しさが増している」(一般工事)「公共事業の抑制により競争が激化し、先行きの見えない厳しい状況」(一般工事)「官民工事とも受注競争が激しく、原価割れが続いており、危機的状態」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは4カ月連続、売上、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「各工場とも操業が好転している」(製材木製品)「全般的に生産量、売上とも増加傾向にあり、中国向け輸出も回復してきている」(有機化学製品)といった声の一方、「納期の短期化等、受注条件が厳しくなった」(一般産業用機械)との声や、「鋼材の値段が再びあがりかけている」(建設建築用金属)「冷夏の影響でもち米、小豆の仕入れ値が上昇し、年末にかけて対前年比2倍になりそうな勢い」(パン、菓子)と仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。また、「円高は造船業界に多大な影響を及ぼすため、今後の受注の落ち込みを懸念している」(船舶製造・修理)と円高の進行への懸念を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「需要は一定水準で推移しており、年内は好調が続くとの見方が多い」(建築材料)「企業間にばらつきはあるものの、若干の動きが見られる」(衣服、日用品)との声や、「気温が低下し、好天にも恵まれ冬物の出荷が順調」(衣服、日用品)と天候の影響を指摘する声の一方、「懸命に販促しているが小売店の反応は今ひとつで、中小卸売業は全体的に低迷のまま推移」(各種商品)「量販店の安売り競争が激しく、特売協力の名目でかなり安値での販売を強いられるケースが増えている」(食料、飲料)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「売上は若干ではあるが増加傾向」(百貨店)との声や、「気温の低下でアウター衣料、肌着、靴下等が伸び、秋物処分セールも集客を高めた」(百貨店)と天候の影響を指摘する声の一方、「郊外店への客足は伸びつつあるが商店街への来街者が減少している」(商店街)「年末年始に向け、期待はあるが消費低迷のトレンドを覆せるか疑問」(商店街)といった声が寄せられている。また、「米の不作のため、関連材料も含め、価格があがる見通し」(商店街)とのコメントも寄せられている。
サービス	業況、採算D Iは4カ月連続、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「依然厳しい状況だが、回復基調になっている」(食堂、レストラン)「組合内でばらつきはあるが、業況は徐々に好転」(旅館)「外国人客が戻りつつある」(旅館)といった声の一方、「ビジネスホテルの増加が著しい」(旅館)「脱サラによる飲食店の開業が増えている」と競争激化を訴える声や、「企業関係の利用者減少が著しく、年末の宴会客もあまり期待できない」(一般飲食店)と依然厳しい状況を訴える声も寄せられている。また、「10月1日からの1都3県での排ガス規制による代替車輛の購入費・償却費の負担が重く、経営に影響している」(運輸)との声も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、四国を除く8ブロックでマイナス幅が縮小し、全ブロック合計でも縮小した。

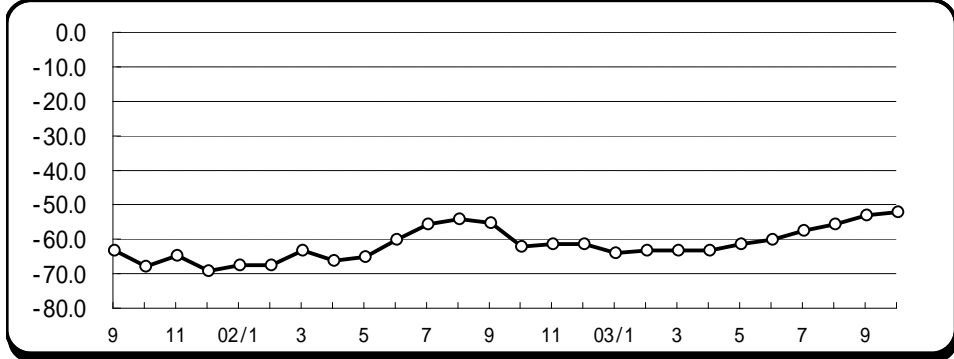
ブロック別の向こう3カ月(11月~1月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	15年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全 国	47.8	49.1	47.6	45.0	43.4	35.8	29.0 ( 43.1)
北海道	47.0	41.5	39.8	40.7	37.0	34.5	26.1 ( 43.7)
東 北	46.8	46.8	46.7	48.8	42.4	41.5	36.3 ( 51.3)
北陸信越	44.3	45.0	42.1	44.0	46.0	33.1	26.5 ( 44.3)
関 東	47.4	48.9	50.0	47.2	44.1	28.4	21.6 ( 40.1)
東 海	50.3	42.8	46.7	41.9	46.5	31.3	27.1 ( 42.2)
近 畿	49.6	55.6	48.3	39.6	43.7	42.9	35.9 ( 47.0)
中 国	45.1	47.2	43.8	46.1	41.3	36.2	33.6 ( 40.8)
四 国	51.8	52.3	58.5	49.6	39.6	40.4	30.3 ( 45.0)
九 州	47.9	56.3	50.0	47.3	45.9	41.6	31.5 ( 37.2)

# 業況DI (前年同月比)の推移 (全国)

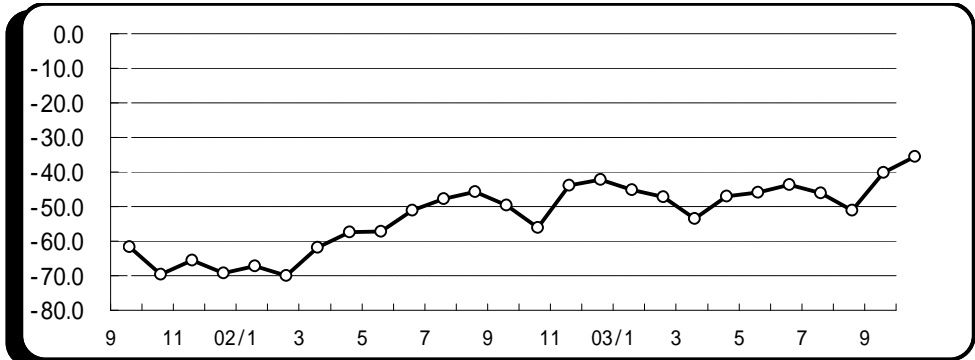
## 建設業



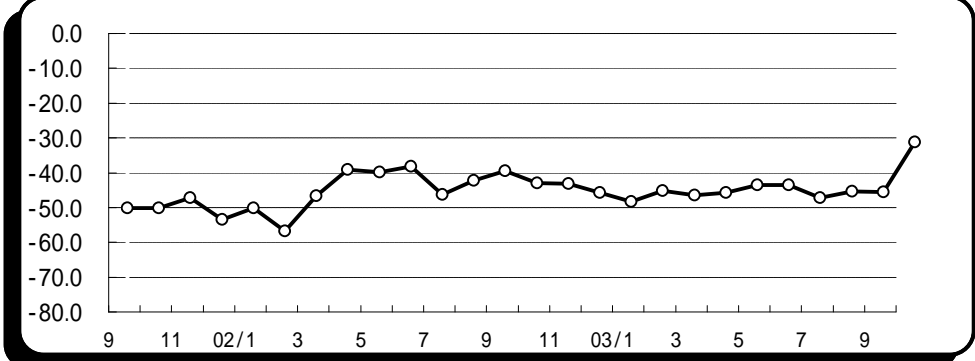
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

